

◆「新しい川崎」メール版◆

－2025年12月23日第208号－

<目次>

● たくさんの学びが広がる～第34回 子どもの未来をひらく川崎集会の報告～

◆ 学校給食無償化を求めて、陳情署名1万4千筆を提出

▲ お知らせコーナー

① 12/28 ゆめシネマ「こどもかいぎ」

② 平和を語る市民のつどい

③ 映画会「サイレント・フォールアウト」(見えない放射線降下物)

★ 編集後記

● たくさんの学びが広がる～第34回 子どもの未来をひらく川崎集会の報告～

11月30日。川崎市立高津小学校で昨年に引き続き、「子どもの未来をひらく川崎集会」が行われました。

教職員連絡会や新日本婦人の会が中心になって実行委員会を立ち上げ、毎年川崎の地で教育に関わる問題について市民、保護者、教職員がともに学び、語り合う場として行われる集会です。

当日は、300名を超える参加で、午前中にオープニング、講演、そしてお昼には出店もあり、午後からは11の教育に関わる分科会が行わした。

これだけの規模で、公立学校を借りて実施できる集会は全国でも稀に見るものであり、他市から参加した人たちにはうらやましいかぎりで、とても驚いていました。

<午前中の全体会では>

午前中のオープニングは地元の小学校のPTAコーラスの発表、そして、プラスバンドクラブや和太鼓クラブの実演があり、それを見に来た地元の保護者もかなりいました。

今年の記念講演は、教育学者、児美川孝一郎さんが「教育のデジタル化と子どもの学び」と題して、90分たっぷりとお話をされました。

今学校で行われているGIGAスクール構想のもとでのデジタル教育は、そのスタートが本来、教育の外側に位置する経産省からのゴリ押しだったことが分かり、驚きました。

ヨーロッパのデジタル先進国などで今は、逆に小学校段階での紙や鉛筆を使っての授業へ切り替わっていることも言及がありました。

それなのに、今の日本はデジタル化に前のめりです。

講演全体で、学校現場や子どもたちへのデジタルについての問題点を鋭く指摘し、デジタル教育に流されない教育の方向について話されました。

今の川崎の学校にピタリと当てはまるお話でした。

この集会では講演と同時並行で、子どもたちも参加できる企画として、「子ども遊び広場」が開かれ、小学校の校庭を使って少年団の指導のもと 20 名も参加して楽しんでいました。

<昼休みも企画がいっぱい>

この集会ではお昼の弁当の用意もあり、さらにこの時間を使って出店も用意しました。

作業所のケーキ、小物販売、地元農家の野菜販売、教材の販売、宝石類の販売そして川崎医療生協のご協力で健康測定コーナーなども出店しました。

<午後の分科会では>

午後からの分科会では「親子でクッキング」「絵本の世界を楽しもう」「和太鼓体験」「小学生、思春期、不登校、特別支援などの年代や課題に合わせた分科会」などが企画されました。

「環境問題に向き合う若者分科会」では小学生 4 年生、高校 3 年生、大学生が環境問題へのとりくみを発表し、その分科会だけで 43 人もの参加がありました。

また「教科書の問題」、「平和を考える分科会」、そして校外に出て「高津の歴史散歩」などもあり、多彩な分科会にそれぞれが参加し学べる会となりました。

<来年に向けて>

この集会は毎年、実行委員を募って作り上げる集会です。

第 35 回の内容を作るために下記のように第 1 回実行委員会があります。

ぜひあなたも一緒に関わって作ってみませんか？

第 35 回集会に向けての第 1 回実行委員会

1. 日時 2026年 2月15日（日） 10時～12時
2. 場所 川崎市総合自治会館 小会議室
3. 内容 第34回集会のまとめ 第35回集会についての意見交流 など

◆学校給食無償化を求めて、陳情署1万4千筆余を提出

12月15日、学校給食の無償化を求める川崎市民の会は、市内の小・中学校、特別支援学校の給食の無償化を求める陳情署名14,058筆を市議会に提出しました。

8月からの短期間で1万を超える署名をどうやって集めたのか、中原区の会の取り組みを報告してもらいます。

8月の署名スタートから12月まで、中原区の会では、区内の商店街や公園、スーパー前などで、合計16回の署名行動を行い、市民の方々と直接対話しながら、学校給食無償化の訴えをしてきました。

そこでの市民のみなさんの意見を報告します。

一番多かったのは、「川崎はまだ無償じゃないの？」という疑問です。

署名をお願いすると、「もうとっくに無償と思っていた。

なんでやらないの？お金がないから？」という質問が私たちに返ってきました。

私たちが、川崎市は政令市トップの財政力があることを話すと、「じゃ、それを使えばいい。何にお金をつかっているの？」と、署名をしてくれました。

次に多かったのは、「多摩川格差」の話題です。

他都市から川崎に越してきて、都内と比べて、何もかも遅れていて驚き、越してきたことを後悔している。」という子育て中の方。

他都市に住む友人に、「川崎に引っ越さない？」と話したら、お金がかかるから無理」と言わされたという方も。

「来年、都民ファーストになります。」という方もいました。つまり、川崎から都内に引っ越すということ。

「無償化すると質が落ちるのでは？」と不安な方もいました。署名の趣旨では、給食の質の確保も要求していることを話し、川崎市は給食費を物価連動制にしたこと、無償化した後も給食の内容や質については、しっかり見ていくということを話しました。

12月4日の最後の署名活動の時、国が小学校の給食無償化を表明したことどう思うかのシールアンケートを行いました。

「①小学校だけでよいか、②中学校・特別支援学校もやってほしいか」の2択でしたが、結果は、アンケートに答えてくれた方全員が、②に賛成でした。

市民のみなさんの気持ちは、義務教育中の全ての子どもたちの給食費を無償にしてほしいという願いです。

国は小学校までの無償化を検討しているようですが、それなら、川崎市は国の動向を待つのではなく、市民のみなさんの声にこたえて、速やかに川崎市独自で給食無償化を実施してほしいと思っています。

鈴木尚子（中原区在住）

★ お知らせコーナー

① ゆめシネマ「こどもかいぎ」

12/28(日)

かわさきゆめホール

一般：1000円・当日：1500円・学生、障がい者：500円

申込：044-433-3003 ゆめホール

：cinema@kawasakiyume.com

[公式サイト](#)

② 平和を語る市民のつどい

～平和とは何か。継承は可能か。

何をもって継承なのか。～

講演 小倉康嗣さん（慶應大学文学部教授・社会学）

ワークショップ 継承をめぐって中学・高校生による議論と発表

1/11（日）午後1時～午後4時

川崎市平和館屋内広場、無料、定員150人

③ 映画会「サイレント・フォールアウト」（見えない放射線降下物）

アメリカ・ネバダの核実験から広がったアメリカ大陸の放射能汚染の実態に迫る。

1月 31 (土) 9:45～11:45

総合自治会館 ホール

参加費無料、事前申込不要

主催・NPO 原発ゼロ市民共同かわさき発電所

・原発ゼロへのカウントダウン in かわさき

詳しくはこちら

★編集後記

総合計画市民説明会に参加して

12月 21日に川崎市が開いた「川崎市総合計画の市民説明会」に参加してきました。

川崎市民だより 12月号では、「総合計画は、市が目指す将来の姿を示し、その実現に向けた取り組みをとりまとめた、市の最も基本的な大切な計画です。

2026年3月の総合計画改定に向けて公表した「総合計画素案」への市民の声をきかせてください。」との記事があり、参加を申し込みました。

会場の中原区役所につくと、区役所は土曜なので閉室していたのですが、玄関前、入口ドアの内側、5階の廊下まで職員が立って案内をしています。

なんとも、ものものしい雰囲気でした。

14時に開会、会場内は80名ほどの参加でしたが、両脇をずらりと市の職員幹部の方々がすわり、市民が率直に意見を述べられる雰囲気ではないなと感じました。

1週間前に、質問を締め切ってしまい、当日参加者には17番までの質問リストが配布されて、これに沿って質疑を進めること、つまり、2時間の進行はすでに決まっており、当日参加者の自由発言はできない流れでした。

まず、福田市長が、今後10年間では川崎市の人口が156万人から159万人に増えるグラフを示した後に、「これから川崎市が重点的に取り組む課題は、少子高齢化・人口減少であり、都市経営の根幹に関わる重要な課題になる」と強調しました。

これには、最初から強い違和感を感じました。

この20年間で市内人口が133万人から156万人へと23万人も急増した大変動のなかで、

市内の各地で起きた人口急増による大きな「ひずみ」の現状把握と原因を分析し、その解決策を明らかにすることが今後 10 年の「総合計画」の最初の一歩だと私は思っていたからです。

市民からの質問の多くは、この「ひずみ」に触れたものでした。

武蔵小杉のまちづくり、タワマンの在り方、等々力緑地再整備、西加瀬物流倉庫建設、災害対策、子育て支援、グループホームや特養施設の市外利用者の問題、公共施設の民営化急増などなどです。

福田市長の答弁は、残念ながら、これらの問題の深刻さをスルーし、具体的な解決策を示さずに大半は「検討」で終わりました。

10 年間の川崎市の将来を考えるための市民説明会は、この 1 回で終わりです。

これで市民の生の声を聞いたというのでしょうか。パブコメも 12 月 26 日で締め切りです。

市民説明会やパブコメの市民の声を川崎市は 3 月の「総合計画決定」に反映させる構えを感じることができません。

それでも、読者のみなさん、パブコメを出しましょう。

3 月までに、市内各地で「川崎のまちづくり」を考える企画を作りましょう。

川崎民主市政をつくる会としても、プランを練りたいと思います。

「地方自治の主人公は私たち市民」です。

来年早々の課題が見えたことが、この市民説明会参加の収穫でした。(H)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆